

「中期基本計画 素案発表会」を開催しました

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」をまちづくりのキャッチフレーズとする「第6次総合計画」がスタートして2年余り。社会経済情勢の変化などを踏まえ、新たな課題に対応した市政運営を進めていくため、中期基本計画(計画期間：平成26～29年度)の策定を進めています。

これまでに「総合計画審議会」や「高浜市の未来を創る市民会議」など、さまざまな市民の皆さんと「高浜市で課題となっていることは何か」「今後どのようなまちづくりを進めていったらよいか」といった対話を積み重ね、計画素案を練りあげてきました。

そこで、素案内容について市民の皆さんにお知らせし、素案に対する意見を伺うため、11月6日に、高浜市いきいき広場 いきいきホールにて「中期基本計画 素案発表会」を開催しました。

担当職員から、素案をもとに「目標に込めた想い」「前期基本計画の取組みから見えてきた課題」「目標達成に向けた考え方」「主な取組みの概要」「計画推進にあたっての決意」を発表。



▲職員から素案内容を発表



▲「自分ごと」として、高浜市のまちづくりについて考えていこう!

その後、総合計画審議会会長・中川幾郎先生(帝塚山大学大学院教授)による「まちづくりトーク」が行われ、高浜市のまちづくりの強み、今後の方向性などを共有する有意義なひとときとなりました。

今後は、発表した素案に対して寄せられた市民の皆さんの意見をふまえ、計画案をまとめあげる作業に入っていきます。(市民の皆さんから寄せられた意見と対応については、広報1月1日号にて公表する予定です。)

中川幾郎先生による「まちづくりトーク」・・・・・・・・

- 前期基本計画の策定以来、高浜市に関わらせてもらっている。外部の目線で見ると、高浜市は“お宝市民”がたくさんいるまちだなあと感じる。
- 例えば、前期の計画づくりでは「高浜市の未来を描く市民会議」に多くの市民が参画した。まちづくりのキャッチフレーズである「大家族たかはま」という言葉は、恐らく行政任せ、コンサルタント任せの計画づくりであったならば、出てこなかったであろう。市民と行政の手づくりならではの温かみがあり、とても高浜市にフィットした言葉だと思う。
- 計画策定後も「高浜市の未来を創る市民会議」が充足し、計画に掲げた目標の達成に向けて、市民と行政がいっしょに取組効果を点検・確認したり、実践を展開されている。これほど市民の意識・実践が進んでいる自治体は、全国を見渡してもなかなかない。
- 前期基本計画の進捗状況を見ていると、施策・指標の推移が上昇傾向にある。中でも、教育・子どもの分野は、大きな伸びを見せている。高浜市の強みは、人口も含めてコンパクトなまちであるということ。つまり、取組みの効果がストレートに表れやすい。こうした効果の表れも、市民の力があってこそである。
- 高浜市では、地方自治法における総合計画の策定義務付けが廃止されても、自治基本条例に総合計画の策定を位置づけた。これは「総合計画をふまえて計画的な行政運営を行おう」「市民とともに高浜市を創り上げていこう」という意思の表れである。また、議会も総合計画の基本計画を議決事項とした。これは、議会は「行政のけん制・監視」という役割だけでなく、実行にも共同責任を持つという決意を示したものであり、高浜市の議会の見識の高さの表れであると、私はとらえている。



▲中川幾郎先生

◆「素案内容や策定経緯を詳しく知りたい」という方は…

高浜市公式ホームページ

<http://www.city.takahama.lg.jp/grpbetu/seisaku> をご覧ください!!

◆地域政策グループでも、会議資料や報告を閲覧することができます。

◆総合計画審議会は傍聴もできます。開催日時・場所などは、問い合わせてください。

